

～平成 28 年 12 月 17 日、堀切大凧揚げ大会の際に堀切菖蒲水門耐震対策工事現場において、来場者を対象に水門耐震対策工事の現場見学会を実施しました～

荒川下流河川事務所管内の堀切菖蒲水門耐震対策工事では、建設業界の未来の担い手となる子ども達を対象に、建設業界への理解と興味・関心を深めてもらうことを狙いとして、荒川河川敷で開催される葛飾区堀切地区の凧揚げ大会にあわせて現場見学会を開催しました。見学会では、普段水中にある箇所を施工するための囲いの中で耐震対策を施工している現場を間近で見たり、耐震対策の効果を実感できる模型の製作を体験してもらいました。

※堀切菖蒲水門耐震対策工事の概要は 2 枚目の参考資料をご覧ください。



**見学会を通じて
伝えなかった事**

若い建設技術者が減っている中で、子供たちが今回の現場見学会を通じて少しでも建設業界に興味を持ち未来の建設技術者となってくれたらいいと思います。

(株)新井組 監理技術者 稲岡

- 開催日：平成 28 年 12 月 17 日 (土)
- 場所：東京都葛飾区堀切二丁目地先
(荒川左岸 10.0k 付近)
- 工事受注者：株式会社 新井組

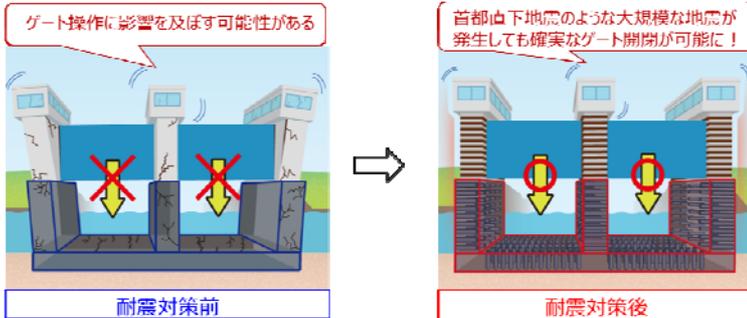
【見学会の様子】

- ・普段入れない場所や普段の生活の中にはないもの（穴あけ後に出た殻や補強鉄筋、機材を積んでいる船）に大人から子どもまで多くの方が興味を示していた。
- ・水門を下から見る体験自体が新鮮だったようで現場に来た多くの方が耐震対策工事だけでなく水門にも興味を示していた。
- ・せん断補強の効果を実感できる模型作製コーナーでは、子どもが紙粘土で遊びながら補強の効果を実験していた。

堀切菖蒲水門耐震対策工事

堀切菖蒲水門の門柱部、堰柱部を鉄筋挿入工法により補強し、大規模地震が発生した場合でも、ゲート開閉等の機能を確保することを目的とした工事です。

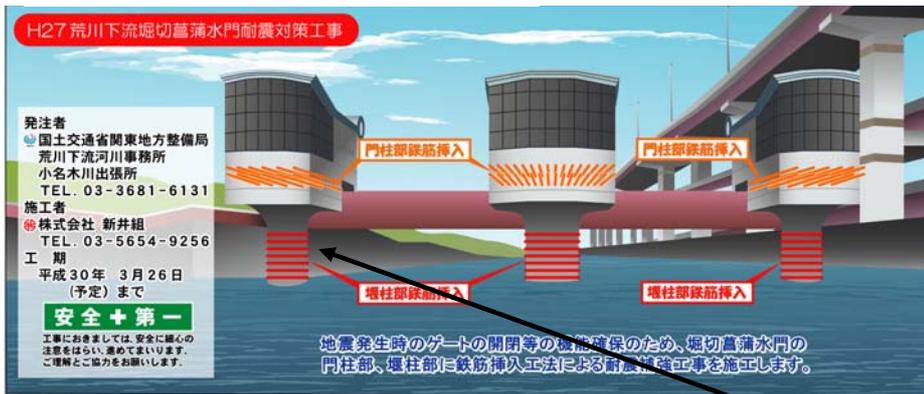
〈水門耐震のイメージ〉



※堀切菖蒲水門耐震対策では門柱部、堰柱部の補強をしています

荒川下流部の沿線地域の人口密度は約14,100人/km²で全国の一級水系の中で最も高く、仮に地震により水門が損傷し開閉機能が失われた場合、津波等のはん濫は広範囲に及び首都機能を麻痺させる恐れがあります。このため、人口・資産が集中するゼロメートル地帯を抱える水門の一つである堀切菖蒲水門の重要性を鑑み、大規模地震に対して水門の機能が確保できるよう耐震補強を実施しています。

〈堀切菖蒲水門耐震対策工事〉



今回、現場見学会を実施したH27荒川下流堀切菖蒲水門耐震対策工事では、綾瀬川の中に水中施工のための囲いを設置し補強鉄筋挿入のための穴を開けている現場を見てもらいました。

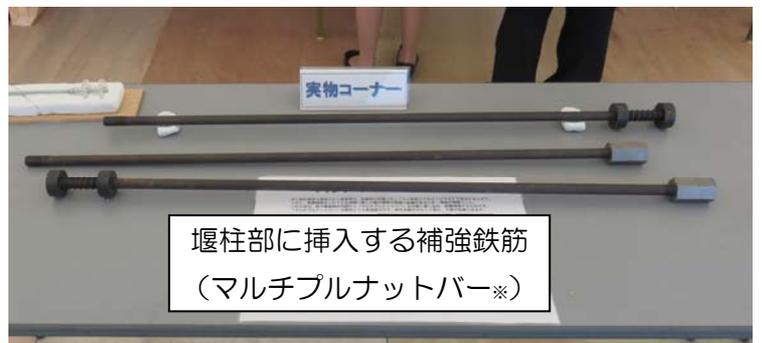
〈堀切菖蒲水門耐震対策で使用する機材〉



補強鉄筋を挿入するための穴をあける機械



開けた穴と補強鉄筋との隙間を埋める機械



堰柱部に挿入する補強鉄筋
(マルチプルナット※)

※狭い囲いの内でも継ぎ手可能な高強度の鋼棒（複数個の機械式定着具を有する）



国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所
〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
TEL: 03-3902-2311 (代表)